

会 議 議 事 録

1	会議名	令和元年度長岡市教育委員会事務評価委員会
2	開催日時	令和元年7月3日（水）午前9時から午前11時まで
3	開催場所	さいわいプラザ 4階 教育委員会会議室
4	出席者名	<p>（委員）</p> <p>青柳委員長 渡辺副委員長 高野委員</p> <p>（説明のために出席した職員）</p> <p>金澤教育長 小池教育部長 波多子ども未来部長</p> <p>曾根教育総務課長 遠藤教育施設課長 笠井学務課長</p> <p>中山学校教育課長 神林学校教育課主幹兼管理指導主事</p> <p>丸山学校教育課主幹兼管理指導主事</p> <p>高橋学校教育課主幹兼管理指導主事</p> <p>山田中央図書館長 佐藤科学博物館長補佐</p> <p>田中子ども家庭課長 田辺保育課長 斎藤青少年育成課長</p> <p>（事務局）</p> <p>安達教育総務課長補佐 植村教育総務課長補佐</p> <p>佐藤教育総務課庶務係長 内藤教育総務課主査</p> <p>五十嵐教育総務課主事</p>
5	欠席者名	なし
6	議題	<p>(1) 平成30年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書について</p> <p>① 教育委員会会議の開催及び審議状況等について</p> <p>② 教育委員会における事務の点検・評価について</p> <p>(2) その他</p>
7	審議結果の概要	資料に基づき、平成30年度に教育委員会が実施した各種事業等について、担当課長が委員に説明し、委員からの質問に回答した。

8 審議の内容	
曾根教育総務課長	1 開会
金澤教育長	2 教育長あいさつ
曾根教育総務課長	3 事務局職員紹介
曾根教育総務課長	4 議事
	(1) 平成 30 年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書について
	I 教育委員会会議の開催及び審議状況等について
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料に基づき事務局が説明 ・ 質疑応答
渡辺副委員長	(質問) 施設訪問は、訪問する施設の順番を決めているのか。それとも、この学校のこの内容を確認したいなどの目的があって訪問施設を決定しているのか。
曾根教育総務課長	(回答) 基本的には、すべての学校及び保育園を訪問したいと考えているが、教育委員にこの内容を見てもらいたいというものがある施設を優先して訪問することもある。
渡辺副委員長	(意見) ただ単に現状を把握するのではなく、特色ある取組を行っている施設を訪問したり、このような視点を持って施設を訪問したりしているなど、教育委員が目的を持って訪問していることがわかるよう報告書に記載するとよいのではないか。
曾根教育総務課長	(回答) 年間を通じたテーマの設定はしていない。学校訪問の際は、学校ごとに抱える課題が異なるため、それぞれの学校の課題について教育委員と学校で意見交換を行っている。
金澤教育長	(回答) 定例会の日に合わせて実施する施設訪問の訪問先は、学校が中心である。学校数が多いが、不平等感が生じないように何年かかけてすべての学校を訪問することとしている。地域性や規模の違いにより、学校が抱える課題は学校ごとに異なるため、学校側で議題を設定してもらい教育委員と意見交換を行っており、教育委員会がテーマや目的を設定しているわけではない。しかし、教育委員会が所管している施設は学校だけではない。例えば、保育園を訪問する際は、民営化された保育園を訪問し、民営化後も保育の質が確保されているか確認を行うなどの目的を持って訪問先を選定している。

青柳委員長	(質問) 定例会の傍聴者は、どのような人か。また同一人物か。
曾根教育総務課長	(回答) 基本的にはマスコミ関係者が傍聴している。
渡辺副委員長	(質問) 文部科学省が開催する研修は、どのような内容か。また、研修の内容をどのようにフィードバックしているか。
曾根教育総務課長	(回答) 文部科学省の職員が新たな施策を説明したり、全国の教育委員が集まりディスカッションしたりしている。研修の内容は、教育長をはじめ教育委員会へのフィードバックのほか、教育委員自身の知識として吸収してもらっている。
渡辺副委員長	(質問) 新たに施設訪問の日を設けた理由は、所管施設が多いこともあり、重点的に施設を見てもらうためか。
曾根教育総務課長	(回答) 定例会の日に合わせた施設訪問は学校や保育園が中心となっている。学校や保育園以外の施設についても教育委員に見てもらいたいとの思いから設けた。
金澤教育長	(回答) 施設訪問の日に訪問した施設の選定にはすべてねらいがあった。上通小学校はロボホンを使用したプログラミング教育の実施、堤岡中学校は大規模改造工事及び増築の完了、高等総合支援学校は体育館の完成、寺泊民俗資料館はトキミ〜での開館にあわせた施設移転が行われたため、訪問先に選定した。
	<p>II 教育委員会における事務の点検・評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料に基づき事務局が説明 ・ 質疑応答 <p>【1 郷土愛の醸成による人材の育成】</p>
渡辺副委員長	(意見) 火焰土器の活用及び発信について、地元の市民団体が縄文の丘マラソンの開催を通じたPRも行っており、そのような取組を報告書に加えたらどうか。
佐藤科学博物館長補佐	(回答) 報告書に加える。
渡辺副委員長	(質問) 青少年の健全育成活動について、補助金と活動報奨金の違いを説明してほしい。
斎藤青少年育成課長	(回答) 補助金は、青少年の健全育成を目的として活動している団体に対して交付するものである。活動報奨金は、地域の青少年育成協議会などが主催する様々な活動内容に対して支給するものである。内容としては、町内のクリーン作戦や地域の伝統芸能の継承行事、子ども向けの工作教室などがある。いずれも団体から申請してもらい、内容を審査して支給の可否を決定する。

青柳委員長	(質問) 補助金や報奨金の申請内容の審査はどのように行われているか。
斎藤青少年育成課長	(回答) 申請書の内容や活動実績報告の内容について、子どもたちが主体的に計画したものか、子どもと大人と一緒に参加しているかなどの基準により青少年育成課で審査を行う。
渡辺副委員長	(質問) 予算の関係上、支給しなかった団体や活動はあるか。
斎藤青少年育成課長	(回答) 昨年度は、予算を理由に支給しなかったことはなかった。
	<p style="text-align: center;">【2 子ども・子育て支援の充実】</p>
高野委員	(意見) 市職員による乳児殺害事件が発生したが、誰しもが起こりうる可能性がある。産後うつ状態の人は外に出ることができなくなる。さまざまな施策が充実しているが、それらを紹介しても外に出られないため利用できない方がいる。自身も携わっている「ままナビ」には、母親同士の交流を楽しみに利用している方が多く、利用者からは満足してもらっているが、交流の場に行くことができず孤独を感じている方もいる。また、報告書や説明内容では、母親や子どものサポートが前面に出ているが、父親や家族、地域の方をどう巻き込んでいくかが今後重要となり、そのような取組についても検討してもらいたい。
田中子ども家庭課長	(回答) 今回の事件を受けて、医療機関や助産師会との連携や協力体制を強めることが重要であると考えている。また母子保健推進員や主任児童委員、民生委員など地域の方の見守りの中で、SOSをキャッチした際には子ども家庭課に連絡をもらい、出向いていく体制がある。また、医療機関では、出産後退院する際に、母親が必要とする支援内容について家族に説明する取組を開始している。
高野委員	(意見) 父親が子育てに参加したくてもできない職場環境の問題もある。市の産業支援課などの施策と連携した取組も必要である。
波多子ども未来部長	(回答) 今後は、父親を含めた家族ぐるみの子育てを支援するという考えに発想を転換しないといけない。現在も、そのような取組も行っているが、報告書には十分に記載されていないため、記載内容について検討したい。企業との連携については、市産業支援課を中心に「はたプラ」の取組も始まっているが、子育て分野からも連携していきたい。父親の意識だけでは変えることはできない部分もある。

青柳委員長	<p>(意見) 支援を必要としている人や、相談に来てほしい人が相談に来てくれない状況がある。困っている人を感知する目を持ち続けることが重要である。</p> <p>(質問) 特別支援学級は増えているとのことだが、特別な支援が必要な児童生徒は増えているのか。</p>
田中子ども家庭課長	<p>(回答) 就学前の児童について、発達支援や通所支援が必要な児童は増えている。</p>
中山学校教育課長	<p>(回答) 今年度、特別支援学級に在籍している小学生は 554 名、中学生は 239 名であり、全体の児童生徒数が減少している中で、特別支援学級に在籍する児童生徒は増加傾向にある。</p>
青柳委員長	<p>(質問) 就学援助制度について、保護者は制度の内容を正しく理解した上で申請をしているのか。認定の基準について説明してほしい。</p>
笠井学務課長	<p>(回答) 生活保護を受けている世帯（要保護世帯）の 1.3 倍までの所得の世帯が対象であり、2,642 人に支援を実施した。対象者は毎年およそ 200 名ずつ減少している。</p>
青柳委員長	<p>(意見) 経済的な理由で教育が受けられず不利益が生じないように、支援を充実させ、子どもたちの教育を受ける権利を確保してほしい。</p>
高野委員	<p>(質問) 以前、児童クラブによっては 4～6 年生の児童を預かることができない状況があると保護者から聞いたことがあるが、現在はどうなっているか。</p>
斎藤青少年育成課長	<p>(回答) 4 年生になったから児童クラブを利用することができないということではなく、個別に相談して決定している。地域によっては低学年を優先している児童クラブもあるが、必要と判断すれば 4 年生以上も児童クラブを利用することができる。また、宅地造成により児童数が増えている児童クラブについては、預かりの需要が大きく、第二児童クラブを併設するなどのハード面の整備も進めている。</p>
渡辺副委員長	<p>【3 質の高い教育の推進】</p> <p>(意見) 食物アレルギーの対応が非常にきめ細やかに行われていると感じるが、ほかにも塩素など化学物質に対するアレルギーもあるということを学習する機会があるとよい。</p> <p>(質問) 特別な支援を要する子どもについて、就学前の健診では発達障害があるとわからなかったが、就学後に判明することもあ</p>

<p>神林学校教育課主幹 兼管理指導主事</p>	<p>る。通常学級に特別支援介助員を配置しているのはそのような児童が増えているためか。またそのような支援が必要な児童をどのように把握しているか。</p> <p>(回答) 全学校でスクリーニング調査を行い、さまざまな項目ごとに児童の様子を複数の教員で確認し、特別支援学級において支援する必要がある児童を把握しているが、その割合は年々増えている。その中で、通常学級で支援が必要な児童がどのくらいいるか各学校から報告を上げてもらい、優先順位を決めて特別支援介助員を配置している。通常学級に通う特別な支援が必要な児童に対しても、特別支援学級と同様に、個別の指導計画を作成する必要があると認識しているが、すべての学校で実施できているわけではない。学校の実情を把握しどのような支援が必要かを考える必要がある。</p>
<p>高野委員</p>	<p>(質問) 長岡市アレルギー対応マニュアルをWEB上で検索したが見つけることができなかった。マニュアルは公開されているか。また、各学校におけるアレルギー対応策は、教育委員会、学校どちらが定めたものなのか。</p>
<p>笠井学務課長</p>	<p>(回答) マニュアルは教育委員会が作成し、国から示された対応方法に基づいて内容の整理を行い、アレルギーの対応手順について段階的に定め、判断できるものとなっている。マニュアルはWEB上には掲載していないが、全学校に周知している。学校はマニュアルに基づいた対応をしている。</p>
<p>金澤教育長</p>	<p>(回答) 学校でのアレルギー対応については、必ず管理職と養護教諭が保護者との面談を行い、医師の診断書を基にどのような対応をするかを直接相談した上で決めるようマニュアルで定めている。</p>
<p>高野委員</p>	<p>(質問) 学校での熱中症対策として、水筒を持参するようになったが、学校によってはスポーツドリンクを持たせてもよいとしたところもある。熱中症対策や基準は学校に示しているのか。</p>
<p>中山学校教育課長</p>	<p>(回答) 水筒の持参については、学校の判断で実施しており、スポーツドリンクの持参など水筒の中身についても教育委員会で把握していない。適切な水分補給の方法やルールについては各学校で決めて対応してもらっている。</p>
<p>青柳委員長</p>	<p>(質問) 来年度から新学習指導要領に移行することに伴い、小学校では英語教育やプログラミング教育などが開始され、授業のコマ数が増える。教職員の働き方改革に関連して、子どもの問</p>

<p>金澤教育長</p>	<p>題行動やさまざまな事案に対する教職員の支援体制が整っていることは報告書及び説明の内容から理解できたが、日常的な教職員の業務や働き方に対する支援についてはどのように考えているか。</p> <p>(回答) 教職員の支援については、人員が増員されないと根本的な解決にはならないと考えている。現場からはスクール・サポート・スタッフの配置が非常に効果的であると聞いている。ただ、人員の増員はすぐに実現するものではないため、学校ができること、教育委員会ができることを考えることが重要である。その中で、学校に関わる団体からも一緒になって取組を考えてもらう必要がある。例えば、中体連が大会を1つ減らすことを検討しているように、関係団体からも教職員の働き方のサポートや負担軽減ができるかを考えてもらう必要がある。</p>
<p>青柳委員長</p>	<p>(質問) 通学路の合同一斉点検を実施しているが、その点検内容をどのように子どもに伝えているのか説明してほしい。</p>
<p>金澤教育長</p>	<p>(回答) 通学路の一斉点検はハード面の整備を中心に開始した経緯がある。通学路の点検を実施する自治体には国から補助金が交付され、学校から半径200m内の通学路の歩道に消雪パイプを整備するなど一定の成果はある。しかし、点検内容や危険箇所の子どもの啓発については、学校に対応を任せている状況であり、よい取組について共有する仕組みが必要である。</p>
<p>高野委員</p>	<p>(意見) 働き方改革について、教職員と保護者、地域の方が集まり話し合う場において、教職員がどのようなことで悩んでいるかを理解し、教職員への支援や負担軽減のために保護者や地域ができることを話し合ったという事例がある。人員の増員も重要だが、教職員が業務をすべて自分で行わなければならないという意識を変えていくことが重要である。</p> <p>【4 生涯にわたるまなびの場の充実】 質疑なし</p> <p>【全体を通しての質問・意見】 質疑なし</p>

青柳委員長 各委員	(2)その他 ・評価委員の意見提出について 集約した意見の調整については、私と事務局とで調整するという ことでよいか。 異議なし。 5 閉会
(出席委員の署名欄)	
9 会議資料	別添のとおり